



日刊 動力労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番

(公) 043 (222) 7207 番

97.8.25 No. 4648

事前通知 「凍結」問題

東労組・革マルの思惑 完全に破産!

結託体制打倒・不当労働行為の 根絶へ、恒常的スト体制強化しよう

「結託体制」を 追いつめた!

八月二二日以降、「凍結」してしまっていた異動の事前通知が改めて直し直されている。二ヵ月遅れの九月一日発令予定の通知だ。内容は、六月に通知を受けた一五名はそっくりそのままの再通知で、これに加え、習志野運輸区から千葉運輸区に一名(国労)、京葉運輸区から館山運輸区に一名(動力労働千葉)が追加され、合計十七名の通知となった。習志野から千葉転への追加の一名は何ひとつ根拠はないが、支社が異動凍結の理由をこね上げたときに、「習志野運輸区の業務が十名分ほど増えたと見込んでいたのが、六名程度しか増えないことになり、要員上不確定な面が生じたため凍結した」と説明してしまったための辻つま合わせである。JR総連の介入を受けいれて事前通知を「凍結」し、そうとは説明できないから架空の理由をデッチ上げ、それを根拠に配転される者はたまったものではない。

ストライキに起ちあがることのできる闘争体制をつくりあげて闘いぬいてきた。この闘いが結託体制の策動をはね返したのだ。

決定的な危機に たった東労組

今回だされた異動通知により、JR東労組千葉地本が決定的なダメージを受けていることは間違いない。彼らは、大山鳴動して鼠一匹得ることはできなかった。「凍結」までさせて事前通知の内容の差し替えを迫ったJR東労組・革マルの思惑は完全に外れ、彼らにとっては何ひとつ利を生まない結果に終わったのである。それどころか逆に、JR東労組千葉地本内の亀裂や対立を深刻化させ、JR千葉支社との結託体制の矛盾をより激化させてしまうという悲喜劇的な結果を招いただけであった。

議事を中断して委員長の自己批判で収拾する、という事態が起きている。現場でも同じだ。JR東労組の組合員は、役員の居ないところでは、「こんなやり方で俺が配転されたら絶対納得いかない」と口々に語っている。

これが結託体制 の行き着く先だ

一方、東労組の横やりを受け入れて事前通知を凍結するという前代未聞の「判断」をしてしまった千葉支社でも、事態はより深刻である。公の場では口に出して言わないものの、支社管内の管理者全員が、「一体何でこんなことまでやるんだ」という憤懣やる方ない気持ちを抱き、それを隠そうともしない状況をつくってしまったのである。これまでだって、本心から革マル結託体制がいいことだ、などと思っている者は誰もいないのだ。支社ばかりではない。他管内からも、「一体千葉では何が起きているんだ」という声が聞こえてくる。

さらに闘いを 強化しよう!

われわれは、今回の凍結問題はこれで終わったことだとは絶対に考えない。やってみよう。た実は消えはしないのだ。われわれは、千葉支社の責任を徹底的に追及する。

またわれわれは、東労組・革マルが今回の事態で自ら招いた組織的危機をのりきるために、より一層卑劣な動力労働千葉・国労め解体攻撃の衝動を強めるであろうことも絶対に軽視しない。

動力労働千葉は、結託体制打倒と一切の不当労働行為の根絶を求めて、恒常的ストライキ体制をより一層強化して闘う決意である。千葉支社は事前通知「凍結」の責任を明確にせよ! JR東労組を解体しよう。

◆当面するスケジュール◆

組織的犯罪対策法反対集会

とき 8月30日 13時

ところ 東京「星陵会館」

指定列車 千葉駅10番線

11時16分始発快速

ガイドライン反対千葉集会

とき 9月11日 18時30

ところ 千葉市文化センター

5階セミナー室